

# 再建だより

(第12号)

## 上棟式

- ・上棟式厳修
- ・上棟の儀
- ・もちまき
- ・ご寄付の途中経過



大廣山圓福寺  
上棟式  
拙語  
東風三月水潺湲  
花笑鳥歌大廣山  
相迎上棟祈壬癸  
經聲朗誦響人間  
江楓室

### 目次：

|          |   |
|----------|---|
| 上棟式次第    | 2 |
| 上棟式厳修    | 2 |
| 三器奉奠の儀   | 4 |
| 曳綱の儀     | 5 |
| 槌打ちの儀    | 6 |
| もちまき     | 6 |
| ご寄付の途中経過 | 7 |

## 臨済宗妙心寺派 大廣山圓福寺伽藍上棟式

平成三十年三月十三日

- 一、檀信徒参集、参列者着座、園児整列
- 一、尊宿入堂、導師入堂立定      導師 平林寺江楓室老大師
- 一、開式の辞
- 一、献灯・献花・散華      穴川花園幼稚園代表園児
- 一、導師献供      焼香、棟札・餅・塩洗米を薫じます。
- 一、導師三拝、香語
- 一、誦経 三卷心経・仏頂尊勝陀羅尼  
經中焼香 導師、住職、圓福寺役員、職人衆
- 一、立柱上棟回向
- 一、上棟の儀
- 【三器奉奠の儀】 さんさほうてん 宮大工の道具を代表して、墨指・指矩・鉾を『水』字になるようにして祭壇に供えます。
- 【曳綱の儀】 ひきつな 棟木に見立てた紅白の梁を全員で棟梁の合図により棟に引き上げます。
- 【槌打ちの儀】 つちうち 棟木を棟梁の合図により 棟に打ち納めます。掛け声は「千歳棟」「万歳棟」「永永棟」。
- 一、挨拶  
菅野企画設計 菅野 良司氏  
松浦建設 松浦 弥氏  
住職 宮田 宗格
- 一、餅まき
- 一、閉式の辞

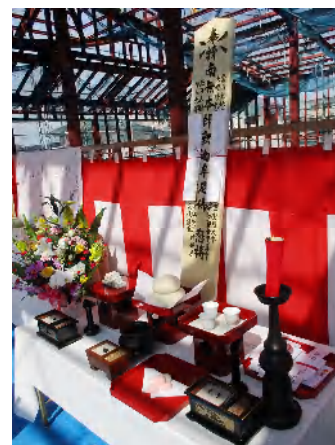
## 上棟式厳修

平成30年3月13日に、埼玉県新座市の平林寺専門道場師家江楓室老大師をご導師に拝請して、圓福寺伽藍上棟式を厳修いたしました。

春本番を思わせるような天候に恵まれ、午前11時から撃柝打ち鳴らされる中、近在および法縁の和尚さま方がご出頭。最後に導師江楓室老大師のご入堂となりました。建設途中の本堂内に仮設の床が設けられ、正面の祭壇には、大きな棟餅、生霊供、菓子などが備えられ、その奥に長さ1m80cmもの大きさの檜の「棟札」が据えられています。

上棟式に先立ち、穴川花園幼稚園の代表による献灯・献花・散華が行われ、堂内はほのほのとした空気に満たされました。

いよいよ、ご導師のお焼香。侍香と呼ばれる雲水の差し出す香箱から焚かれたお香の香りが堂内に漂います。その香り豊かなお香でお供え物を薫じていただき、五体投地の三拝。両ひざ・両手・額の五体を地につけての礼拝は、仏教でもっとも丁寧な礼拝と言われています。その礼拝を終えて、ご導師の老大師が上棟の慶事をたたえる漢詩を朗々とお唱え下さいました。





## 上棟式

再びのご導師のお焼香につづいて、般若心経の読経へととなりました。上棟式はご祈祷のお参りになるので、般若心経を三回唱える「三卷心経」でのお参りです。また、普段は木魚で読経するのですが、祈祷太鼓による読経でした。堂内に祈祷太鼓の

軽快な音があふれ、朗々たる読経の音声と共に、ご祈祷にふさわしいお参りでした。

ご回向では、山内の安泰、火難盗難の消除そして、有縁無縁の方々との吉祥を祈らせていただきました。



湯島 麟祥和尚  
小見川 樹林和尚  
木更津 栖安和尚  
成田 圓通和尚  
富浦 満蔵和尚  
佐原 清寶新命

随喜出頭

差定  
導師 江楓室老大師  
維那 清寶和尚  
侍真 長禅和尚  
侍衣 靈桃和尚  
侍香 平林雲衲  
右

## 上棟の儀



### □□□ 三器奉奠の儀

三器奉奠（さんきほうてん）の儀は、宮大工の道具を代表して、墨指（すみさし）・指矩（さしがね）・鉦（ちょうな）を『水』の字になるようにして祭壇に供える儀式で、工事の安全はもとより、完成後もその建物が火から守られることを祈って、「水」の字にするのだそうです。

堂内で、和尚様方はじめ役員さんや出入り業者さんが見守る中、現場責任者の棟梁が一つ一つの大工道具を押し頂いて、祭壇にそなえていきます。最近の建築現場では、カンナや墨壺、ましてやチョウナなどを見ることもありませんから、宮大工さんならではの儀式かもしれません。ちなみに、本堂の方を担当する棟梁さんは、金沢城の石川門の修復工事の棟梁も務めた大工さんだそうです。



「水」の字に配された、墨指・指矩・鉦

## □□□ 曳綱の儀

本堂の棟に紅白の布がまかれた仮の棟木が渡されています。「曳綱の儀」は、クレーンなどの機械がない時代に、重い棟木を人力で引き上げた作業が儀式化されたもののようです。そこで、この紅白の棟木か

ら綱をたらし、それを参集した全員が手に取り、掛け声とともに棟木を引き上げる所作をいたしました。たくさんの人の手で建物が立ち上がるというので、檀信徒のみなさんのご寄付で建てられるお寺には、一番似つかわしい儀式かもしれません。

本堂前に、ご出頭いただいた和尚様方、役員さん、檀信徒の皆さん、そして幼稚園の子どもたちも集まり、総勢300人以上だったかと思います。今か今かと引き上げの合図を待っていました。棟梁の掛け声に合わせて、綱を引く掛け声を発するのですが、大人が戸惑っている間に、反応のいい園児たちのかわいい掛け声が境内にあふれ、それにつられるように大人も掛け声を上げて綱を曳き、無事棟木を引き上げる「曳綱の儀」を済ませることができました。



江楓室老大師を先頭に、たくさんの方が紅白の綱でつながりました。



曳綱の綱がどこからつながっているのか、高いところを見る子どもたち



【右】 平林寺江楓室老大師  
【中】 住職夫妻  
【左】 松浦建設社長松浦弥さん

## □□□ 槌打ちの儀

引き上げられた棟木を、木槌で打ちつけるのが「槌打ちの儀」で、本堂前に御幣を持って立つ棟梁の掛け声に合わせて、棟に立つ職人さんが木槌を振ります。

最後の掛け声は「永永棟」（えいえいとう）といって、とこしえに本堂がこの地で栄えますようにという願いが込められました。



## もちまき



最後に、最近では目にすることも少なくなったもちまきを行いました。幼稚園児たちはもちろんですが、檀信徒の老若男女も童心にかえって、お餅やお菓子を拾っていただきました。

この餅まきで、圓福寺の伽藍上棟式を、無事円成することができました。ありがとうございました。

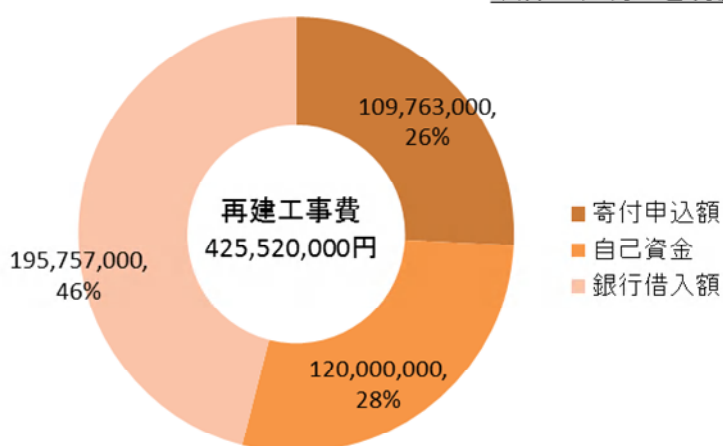




## ご寄付の途中経過

### 資金計画進捗状況

平成30年3月20日現在



上棟式という慶事の特集になった今回の「再建だより」ですが、ご寄付の状況を掲載しようかどうか迷いましたが、少し間が空きましたので、現状をお知らせしなければということで、左図の通り、お知らせいたします。

仏像仏具のご寄付の方も、一回だけでなく複数回ご寄付してくださる方がいらしたりして、間もなく目標額になりそうで、心よりお礼申し上げます。

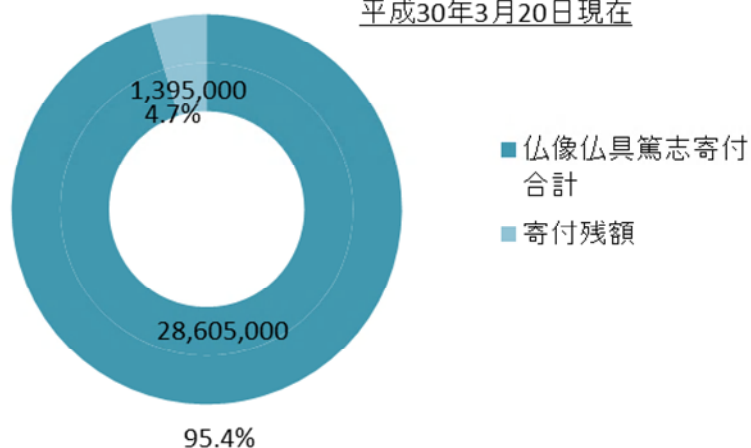
そんな中、最近になって、東京駒込の勝林寺さんや東京千駄木の養源寺さんなどから、使わなくなった仏具や使用していない大磬・木魚などを寄進していただきました。ありがたく使わせていただくことになりますが、勝林寺さんも養源寺さんも先代ご住職からのご縁で、その息子さんたちが圓福寺のことに留めていて下さるという、法縁のありがたさを改めて感じています。



養源寺さんから寄進していただいた大磬。  
(白ラックで運んでくれました。)

### 仏像仏具篤志寄付途中経過

平成30年3月20日現在





### 臨済宗妙心寺派 圓福寺

千葉市稲毛区穴川町375

電話: 043 (251) 9181

FAX: 043 (251) 9549

電子メール: oshou@chiba-enpukuji.com

本堂や書院の軒先の瓦をデザインしました。

軒先の丸瓦の先端には、お寺の寺紋や寺号・山号などが焼き込まれたものが葺かれます。

「大廣山」という山号にしようか、そのものずばり「圓福寺」にしようか思案しましたが、檀信徒の方々になじみのある、○の中に「福」を配したものにすることにしました。とはいえ、そのまま漢字の福では落雁の型みたいになるので、パッと見てすぐに「福」と気づかないようなものがないと思い、左の絵のようなデザインにしました。

これが軒先に並んで、まるい福がたくさん転がり込んで・・・、なんて縁起がいいではありませんか。

たしか長崎で見た、玄関先の「福」の飾りは、「福」をひっくり返して飾るのが正式ですと教えてもらいました。これも、「福」が転がってくるという意味があるのだそうです。

「福」ついでにもう少し。

掃除を大切にする禅宗ですから、毎日毎日、雑巾であちら福福（ふくふく）、こちら福福（ふくふく）・・・、雑巾がけまで縁起が良くなります。

[http://www.chiba-enpukuji.com/saiken/genba\\_archive/408](http://www.chiba-enpukuji.com/saiken/genba_archive/408)

## 久しぶりの再建だよりです。

2月下旬に、四国あるき遍路で3日間で70kmを歩いて、右足首の外側が腫れてしまいました。何年前に、市原別院の薪小屋を作っている時に屋根から落ちて右踵を骨折した後遺症なのだろうと思っています。30歳目前に一人で歩いた時には、1日60kmも歩いたのになあ・・・やめましょう、年寄りの自慢話になりますから。

その遍路の後、春彼岸法要の支度や上棟式の支度、3月11日に春彼岸法要、13日に上棟式、17日に幼稚園の卒園式・・・と、濃密な一週間でした。

その間に、市原別院の梅も盛りを過

ぎ、今はこぶしが満開です。地べたに目を転ずると、このあいだまで霜で真っ白になったり、霜柱が立っていた小さな庭に雑草がはびこり始めています。春先、雑草の種ができる前に草取りをしておくと、あとが楽なんだというのがお袋の教えでしたから、草取りもしなければと思っていたら、春の雨。上棟式のまともをしろという天の声に違いありません。というわけで、この再建だよりをなんとかまとめることができました。

次は、記憶が残っているうちに、あるき遍路のまともをしなければ・・・。

(平成30年3月20日記)



3巡目第1回から履き始めた、住職手作りのわらじ。  
4回目で先の方が傷んできました。